

KiPROmini

クイックスタートガイド

はじめに

このクイックスタートガイドでは、Ki Pro Miniの概要と基本的な設定方法をご案内します。
詳細な情報については、Ki Pro Miniのマニュアルや最新のリリースノートをご覧ください。

Ki Pro Miniをご使用いただく前に

Ki Pro Miniを初めてご使用になる場合は、このガイドとKi Pro Miniのマニュアルを必ずお読み下さい。

まず、収録は適切なコンパクトフラッシュ（CF）カードを使用する必要があります。AJAはKi Pro Miniの製品WEBページ（<http://www.aja-jp.com/kipro/ki-pro-mini/>）で推奨CFカードリストを配布していますのでご確認頂き、推奨メディア以外は使用しないでください。CFカードは下の写真の様に、本体上部にある2つのスロットのいずれかに挿入してください。CFカードのラベルが本体正面から見て右側にあることを確認し、スロット内に軽く押し込むとそのスロットにはロックがかかります。（スロット横のイジェクトボタンが突出します）



**注意！**

CFカードがきちんと取り付けられているかどうか、必ず確認してください。取り付けが不十分な場合、記録中に予想外のエラーを起こす場合があります。また、取り外す際には、必ずSLOTボタンを押してアンマウント作業を行ってから取り外してください。アンマウントせずに取り外した場合、データの損失が生じる場合があります。

Ki Pro Miniは、下記のいずれかの方法を使ってカメラやビデオ機器の側で使用することができます。

- ・ 机上またはラック上等、平らで安定した場所に設置する
- ・ オプションのミニスタンドを使って、立てて使用する（L字型アダプタケーブル付属）
- ・ オプションのマウントプレートを使って、ビデオカメラ、三脚、その他カメラアクセサリに取り付けて使用する

オプション Ki Pro Mini ミニスタンド（ネジ4個、L字型アダプタケーブル付属）

オプション：
Ki Pro Mini
ミニスタンド
（ネジ4個付属）



Ki Pro Mini底面
L字型アダプタ
ケーブル装着時

オプション Ki Pro Mini マウントプレート（ネジ4個付属）

カメラやアクセサリ用のマウントキット



マウントプレートを2枚装着した状態

CFカードのフォーマットについて

CFカードを挿入した場合、"Warning Media Unformatted"という警告が表示される場合があります。この警告が表示された場合はCFカードのフォーマットを行ってください。フォーマットを行うには、まず、フロントパネルのMEDIAボタンを押し、上下のSELECTボタンを使ってパラメータ16.1を選択します。次に上方向のADJUSTボタンを押してFORMATを選択し、再度、上方向のADJUSTボタンを2秒間押しとフォーマットが開始されます。

フォーマット完了のメッセージが表示された後、停止ボタンを押すと標準操作へ戻ります。

収録設定について

Ki Proとカメラの電源投入後、望ましい収録を行うために設定メニューを選択していきま。収録を開始する前、あるいはセッティングを行う際には、以下の基本的な事柄について考える必要があります。

- ・ ビデオ・オーディオ・タイムコードをどのようにKi Pro Miniに接続するか
- ・ Apple ProResのどのタイプを使用して収録するか
(ProRes 422/HQ/LT/Proxy)

Ki Proのメニューを設定していくことは非常に簡単です。設定は大きく分けて「CONFIG」と「MEDIA」の2つのメニューで構成されています。Ki Pro本体の設定に関しては「CONFIG」から各種設定を行います。「SELECT」の上矢印ボタンを使ってメニューを変更し、「ADJUST」の上矢印ボタンを使ってパラメータの変更を行います。

CONFIG メニューパラメータの概要

- 1.1 Record Type** 通常はデフォルト設定である「Normal」を選択します。23.98PsFのようにPsF (Progressive segmented Frame) フォーマットを使用する場合は、「PsF」を選択する必要があります。
- 1.3 1080p Playback** CFカードから1080pメディアを再生する場合にこのパラメータを設定します。
- 2.1 Video Input** 利用可能なビデオ入力接続から、入力ソースを選択します。これは記録またはスルー出力されるビデオ信号です。現在選択されているオーディオ入力ソースと組み合わせる使用ができないビデオ入力ソースを選ぶと「A/V Mismatch」の警告が表示されます。
- 2.2 Audio Input** 利用できるオーディオ入力接続から、入力ソースを選択します。SDIエンベデッドオーディオ、HDMIオーディオ、アナログオーディオを選択できます。アナログオーディオは、どんなビデオ入力ソースでも使用することができます。
- ※SDI ビデオ入力を選択時、HDMIオーディオ入力を選択することはできません。同様に、HDMIビデオ入力を選択時、SDIオーディオ入力を選択することはできません。
- 4.1 Analog Audio** アナログオーディオ入出力の信号レベルを選択します。Ki Pro Miniに接続している機材のタイプに応じて適切なオーディオ設定を選択して下さい。
- 6.1 Genlock** リファレンスビデオの入力選択を行います。Ki Pro Miniは収録中、常に選択されているビデオ入力にロックしますので、この設定は再生時のみ影響します。
- ・ Input : (デフォルト) ゲンロックソースとして現在選ばれている入力を使用
 - ・ FreeRun : 自身のタイムベースに同期し、外部ソースにロックされません
- 8.0 TC In** 利用できるタイムコード入力接続から、入力ソースを選択します。多くの場合、カメラから提供されているタイムコードを複製するために「LTC」か「SDI RP188」を選択します。「TC Value」や「Time Of Day」を使用することで、内部生成したタイムコードや、収録時刻をソースとして使うこともできます。
- 注：「LTC」および「SDI RP188」からT.C.を収録する場合には、カメラ側から有効なT.C.が出力されている必要があります。カメラ側をRecRunに設定して収録する場合は、カメラの収録がスタートしてからKi Proの収録をスタートして下さい。
- 8.1 TC Value** 内部生成するタイムコードを1時間単位で設定することが可能です。タイムコードは設定をリセットするまでレコーディング毎に増加します。
- 8.2 TC Type** ドロップフレームとノンドロップフレームの選択を行います。

※クイックスタートガイドでは、イーサネットと無線パラメータの構成は省略します。これらのパラメータの設定方法に関するより詳細な情報は、Ki Proマニュアルを参照して下さい。

- 8.3 Arm Recording** レコーディング開始をどのように行うかを設定します。本体のRECORDボタン（またはWEB経由のRECORDボタン）または、タイムコードの歩進に合わせて行うかのいずれかを選択します。
- 41.1 Video SG Frmt** Ki Pro Mini内部のテスト信号ジェネレータから出力するビデオフォーマットを選択します。
- 41.2 Video SG** Ki Pro Mini内部のテスト信号ジェネレータから出力するビデオ信号を選択します。
- 41.3 Audio SG** Ki Pro Mini内部のテスト信号ジェネレータから出力するオーディオ信号を選択します。
- 50.1 IP Config** 使用するTCP/IPネットワーク設定のタイプを選択します。
- 50.2 IP Address** TCP/IPネットワーク接続に使用する固定IPアドレスを設定します。
- 50.3 Subnet Mask** TCP/IPネットワーク接続に使用するサブネットマスクを設定します。
- 50.4 Static Gateway** TCP/IPネットワーク接続に使用するゲートウェイまたはルーターを指定します。
- 50.5 System Name** Ki Pro Miniの名前を設定し、固有の識別子とします。WEBインターフェイス経由でシステムを表示するときにも使用されます。
- 50.6 MAC Address** Ki Pro MiniのEthernetアダプタのMACアドレスを表示するだけの情報パラメータです。
- 56.1 Date Set** Ki Pro Miniの内部カレンダーを設定します。カレンダーは YYYY/MM/DD（年/月/日）と定義されます。「ADJUST」ボタンを押して設定表示に入ります。「ADJUST」ボタンと「SELECT」ボタンを使用して YYYY/MM/DD を設定します。
- 「ADJUST」ボタンでキャラクターの数値変更し、上矢印の「SELECT」ボタンで次のキャラクターへ進めることができます。選択されているキャラクターの文字は点滅します。右端のキャラクターの数値を定め、上矢印の「SELECT」ボタンを押すとすべてのキャラクターが点滅します。ここで再度、上矢印の「SELECT」ボタンを押すと設定が確定し、次のメニューパラメータが表示されます。

- 56.2 Time Set** Ki Pro Miniの内部時計を設定します。内部時計は24時間モードの表示です。
- 「ADJUST」ボタンを押して設定表示に入ります。上矢印の「SELECT」ボタンでキャラクターを選択します（時間 / 分）。「ADJUST」ボタンを押して数値を定め、上矢印の「SELECT」ボタンで次のキャラクターへ進みます。選択されているキャラクターの文字は点滅します。
- 終了する時は、右端のキャラクターの数値を定め、上矢印の「SELECT」ボタンを押すとすべてのキャラクターが点滅します。ここで再度、上矢印の「SELECT」ボタンを押すと設定が確定します。
- 70.2 Display Intensity** 液晶画面の輝度、およびフロントパネルボタンの照度を設定します。
- 70.3 Fan Speed** Ki Pro内部の冷却ファンの速度を設定します。音源にKi Proが近い場合は、「Quiet Record」に設定することが望ましいかもしれません。パラメーターを設定したら、再度「CONFIG」ボタンを押すか「STOP」ボタンを押すことでCONFIGメニューを終了させることができます。
- 80.1 Serial Number** Ki Pro Mini 個別のシリアル番号を表示します。
- 80.2 SW VERSION** Ki Pro Miniのソフトウェアのバージョンを表示します。
- 99.0 FACTORY RESET** ADJUST上矢印ボタンを2秒間押すと、Ki Pro Miniは工場出荷時のデフォルトの設定に戻ります。

MEDIAメニューパラメータの概要

- 14.1 Encode Type** Apple ProRes 422エンコーディングの種類を選択します。Apple ProRes 422、Apple ProRes 422 (HQ/LT/Proxy) の4種類から選択できます。
- 15.1 Play Media** 再生時の動作を指定します。
- 15.2 Loop Play** クリップのループ再生についてオン/オフを選択します。
- 16.1 Format Media** 現在、取り付けられているメディアをフォーマットするのに使用します。この作業を実行する前にReel Nameパラメータを望ましい値に設定した方が良いでしょう。
- 16.2 Delete Clips** メディアに記録されている全てのクリップを削除するのに使用します。フロントパネルボタンの「DELETE CLIP」を使用して、1つずつクリップを削除することもできます。

- 17.0 Reel Name** すべてのクリップに関連するリール名を設定します。リール名は1～999までの間で設定できます。リール名はテープベースのメディア管理と同様の命名規則に従うものであり、EDLで必要となる3桁の数字です。したがって、このパラメータは必ず設定する必要があります。Reel Nameは、メディアをMac OS Xにマウントした際に表示される名称です。これらの理由から、Ki Pro Miniメディアをフォーマットする前には、設定されているリール名が適切かどうか確認した方がいいかもしれません。
- 17.2 Clip Name** すべてのクリップに関連するクリップ名を設定します。クリップ名は「Clip」か「SC」を選択します。
- 17.3 Clip Number** すべてのクリップに関連するクリップナンバーを設定します。1～999までのClip Nameに続くクリップ番号です。
- 17.4 Clip Append** パラメータ 17.5 ALPHA APPENDと組み合わせて使用し、クリップ番号の後にアルファベットを付加します。
- 17.5 Alpha Append** パラメータ 17.4 CLIP APPENDと組み合わせて使用し、クリップ番号の後にアルファベットを付加します。
- 17.8 Take** Clip NameとClip Numberに続くTake番号を設定します。これはAlpha Append設定もフォローします。Take番号は自動的に増加していくパラメータです。これにより、クリップ名に関する他のパラメータと組み合わせて使用することで、収録された各々のクリップに有益なクリップ名をつけることができます。
例) SC12BTK1、SC12BTK2、SC12BTK3等..
- 19.1 Custom Clip** パラメータ 19.1、19.2、19.3、19.4 や WEB UIを使ってカスタムクリップ名を設定するかどうかを設定します。
- 19.2 Custom Name** カスタムクリップ名を設定します。カスタムクリップ名は、正面パネルのSELECTボタン、ADJUSTボタンを使って設定します。
- 19.3 Custom Clip Take** カスタムクリップテイク名を使うかどうかを設定します。使うように設定した場合は、最初に設定した値から順番に繰り上がります。
- 19.4 Custom Take** カスタムテイクを設定します。カスタムテイク値を、正面パネルのSELECTボタン、ADJUSTボタンを使って設定します。
- 22.1 Gang Clip Name** 複数のKi ProやKi Pro Miniを使ったギャングレコーディング（複数台コントロールについては、マニュアルを参照）を実行するときに使用します。

STATUSメニューの概要

STATUSメニューはCONFIGやMEIDAメニューのように、Ki Pro Miniが停止状態である必要はなく、設定内容の概要を一目でわかるように表示します。STATUSボタンを押すと、入力されているビデオとオーディオフォーマットと入力ソースが表示されます。もし、Ki Pro Miniに有効なビデオ信号が供給されていない場合は、STATUSメニューには「No Input」と表示されます。このように表示されている場合は、カメラからKi Pro Miniへ適切な配線がされているかどうか、また、ビデオ／オーディオ入力のメニューが正しく設定されているかどうか確認して下さい。正しく設定されていれば、入力されているビデオ信号（例：1080i 29.97）が表示されるはずです。



入力ビデオフォーマットの変換を設定していない場合は、収録フォーマットは入力ビデオフォーマットと同じです。もし変換を選んでいる場合は、RECの段に表示されます。

ディスプレイ最下部の左側はビデオ入力元、右側はオーディオ入力を表示しています。上矢印の「SELECT」ボタンを押すことで、システムが警告を出しているか、想定通りに作動しているか（「SYSTEM NORMAL」と表示されます）を確認できます。

STATUSメニューを終了するには、CONFIGやMEDIAメニューと同様に、再度STATUSボタンを押すか、STOPボタンを押すことでSTATUSメニューを終了させることができます。

収録と再生について

Ki Pro Miniの収録ボタンを押すだけで収録が開始し、停止ボタンで収録が停止します。収録後、メディアが空の時には「N/A」と表示されていた液晶画面の左上に、クリップ名が表示されているはずです。このクリップ名は先に設定したパラメータを反映した結果です。他のテイクを収録したい場合は、再度収録ボタンを押し、そして停止して下さい。Take番号は、クリップ名の設定パラメータが変更されるまで増加し続けます。

収録したクリップをKi Pro Miniのビデオ出力でモニターしたい場合は、単純に再生ボタンを押して下さい。また再生しているクリップを一時停止したい場合は、停止ボタンを押して下さい。停止ボタンは点滅し、一時停止状態であることを示します。再度停止ボタンを押すと、Ki Pro MiniはEEモードに戻るか、設定されている入力をパススルー出力します。異なるクリップを再生する場合には、上下矢印の「SELECT」ボタンを押して、希望のクリップを探して下さい。

ヒント：再生中に下矢印のSELECTボタンを押すと、クリップの始まりへジャンプします。1フレームごとに動かしたい場合は、一時停止状態で上下矢印の「ADJUST」ボタンを使って下さい。クリップの巻き戻しと早送りボタンは、通常の使用方法以外にも、複数回押すことによって送り速度を速くすることができます。

DELETE CLIPボタンの使い方

Ki Pro Miniで収録したクリップで削除したいクリップがある場合は、「DELETE CLIP」ボタンを使います。削除したいクリップ名が液晶画面に表示されている状態で「DELETE CLIP」ボタンを押します。液晶画面で削除の確認を求められるので、YESならば上矢印の「ADJUST」ボタンを押します。NOであれば下矢印の「ADJUST」ボタン、またはその他のボタンを押して下さい。

SLOTボタンを使ったCFカードの取付けと取り外し

Ki Pro Miniは電源が投入されると、利用できるメディアを探し、それをマウントします。この時、液晶画面に「MEDIA MOUNTING」と表示されます。そして一旦メディアがマウントされると、スロットボタンの下部にあるグリーンLEDが点灯します。また、メディアが正しくマウントされているかを液晶画面で確認することもできます。画面の左下にリール番号、右上にメディアの残り容量パーセンテージが表示されれば、メディアは正しくマウントされています。

メディアを取り外す場合は、必ずSLOTボタンを押して下さい。そして画面のクリップ名とリール番号に「N/A」、メディアの残り容量に「No Slot」と表示され、グリーンLEDが消灯していることを確認して下さい。この状態は、メディアを安全に取り外せる状態であることを意味します。CFカードを取り外す時は、カードスロット脇のリリースボタンを押し込んでCFカードを引き抜きます。

取り外したメディアは、CFカードリーダー経由でコンピュータに接続し、クローンやバックアップを作成することができます。

注：メディアのバックアップを行うこと推奨します。

Ki Pro Miniにメディアを取り付けるには、CFカードのラベルが本体正面から見て右側にあることを確認し、スロット内に軽く押し込むとそのスロットにはロックがかかります。（スロット横のイジェクトボタンが突出します）

メディアが正しくマウントされれば、クリップ名、リール番号、残り容量を示す情報、そしてグリーンLEDが点灯します。

警告について

Ki Pro Miniの液晶画面に表示される、ユニットの状態や設定に関する警告の詳細は以下の通りです。

WARNING Input Format Changed

収録中に入力信号が途絶、または変化したことを示し、Ki Pro Miniは収録を停止します。

WARNING Record Format

ビデオ信号が入力されていません。この状態での収録はできません。

WARNING A/V Mismatch

ビデオ入力をSDI、オーディオ入力をHDMI、またはその逆の組み合わせに設定した場合に表示されます。エンベデッドオーディオはビデオ入力と同一でなければなりません。アナログオーディオは、すべてのビデオ入力と組み合わせて使用できます。

WARNING Dropped Frames

使用中のメディアのパフォーマンスが低下し、収録／再生を実行するデータ転送レートを満たすことができなくなった場合に表示されます。収録中にこの警告が表示される場合は、メディアをバックアップして、メディアの再フォーマットを行う必要があるかもしれません。再生中は、再び再生を試してみてください。

WARNING Media Low

メディアの残り容量が15%未満になった場合に表示されます。残り容量が10%になるまでに、メディアを交換しなければなりません。残り容量が10%未満になると「WARNING Media Full」と表示されます。

WARNING Media in Use

メディアの使用中にSLOTボタンを押してメディアを取り外そうとした場合に表示されます。停止ボタンを押し、停止ボタンが点灯した状態で、再度SLOTボタンを押し、メディアの取り外しを行ってください。

WARNING Media Not Present

メディアが取り付けられていない状態でSLOTボタンを押した場合に表示されます。

WARNING Media Unformatted

Ki Pro MiniがCFカードのファイルシステムを認識できない、またはCFカードがフォーマットされていないときに表示されます。

WARNING Storage Removed

SLOTボタンを押さずにメディアを取り外した場合に表示されます。この場合、取り外したメディアをKi Pro Miniに取り付けても「N/A」と表示され、クリップの表示や以後の収録はできません。この問題を解決するためには、Mac OS Xで動くコンピュータにメディアを接続し、クリップをバックアップしてください。そしてKi Pro Miniに再度メディアを取り付けてください。もし解決しない場合はCFカードを再フォーマットする必要があります。

WARNING Backup and Reformat

Ki Pro MiniにマウントされているCFメディアに問題がある場合に表示されます。警告に従いメディアを他のドライブメディアにコピー／バックアップし、メディアを再フォーマットすることが必要です。兆候としては、メディアがリードオンリー（読み取り専用）になったり、収録したのにクリップ情報に「N/A」と表示されたり、「Loading」と表示しながらクリップをロードできなくなったりします。また、正しく設定されているにも関わらず、収録ボタンを押しても収録が開始されなくなることもあります。

WARNING Name in Use

名前をつけるパラメータで指定したクリップ名がCFカードに既に存在する場合に表示されます。テイクナンバーが999になり、それ以上収録できない場合にも表示されます。Ki Pro Miniはクリップの上書きをしません。クリップを削除するか、別の名前をつけてください。

WARNING Non VFR Format

1.1 RECORD TYPEでVFRを選択したが、ビデオ入力にVFRデータを検出できなかったときに表示されません。

WARNING No Clip Name

存在しないカスタムクリップ名を使って、ギャングモードで収録しようとする则表示されます。

WARNING Genlock Missing

6.1 GENLOCKで「Input」を選択してクリップを再生しようとしたときに、選択した入力ソースにゲンロックがない場合に表示されます。